

Photobook

群馬大学  
手話サポーター  
養成プロジェクト室の  
取り組み  
2021-2022

Supported by  日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION

 群馬大学  
手話サポーター養成プロジェクト室  
SIGN LANGUAGE



## PROJECT

「群馬大学手話サポーター養成プロジェクト室」では、2017年度から、日本財団助成「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業を開始し、学生に手話および手話通訳技術の習得を目指す授業を開発・実践してきました。しかし、2020年度からのコロナ禍のために授業は全面オンライン化を余儀なくされました。





私たちは、「やむをえずオンライン」ではなく、オンライン環境での手話教育を開発していくことで、より全国に広がりを持たせられる実践が可能になるのではないかと考えました。そして2021年度からは、新たに日本財団助成「聴覚障害に関わる支援人材育成を目的とした遠隔手話教育システムの構築」事業として、オンライン環境を最大限に活かした授業設計をし、全国に発信できる取り組みとなるよう、さらに前に進むべく、新たな歩みを進めています。



CLASS

# 手話とろう文化

対面でも 100 人を超える大人気の授業でしたが、オンラインになったことで、公開講座による一般参加も可能となり、あわせて 300 人を超える受講者数になりました。学生によるオープニング、教員が役者になりきったスキット、ろう文化や手話の文法の解説と、盛りだくさんの 90 分を、スタジオから画面合成をして配信します。





# 言語としての日本手話



オンライン化したことをプラスに変えて、革命的な授業改善を実現させたのが、他ならぬこの1年生の授業。反転学習を取り入れたり、プロジェクト学習を取り入れたりして、確実に学生の手話スキルを引き上げていきます。





# 日本手話と 日本語の違いを学ぶ

オンライン教育の最適化を目指す一方で、やはり対面ならではの良さもあります。2021年度の後期からは、感染症対策に配慮しつつ対面指導を行ってきました。特に、2～3年生向けの手話通訳養成の授業「日本手話と日本語の違いを学ぶ」ではグループに分かれて学習をしたり、同じ空気感の中で共に笑い、共に悩み、共に問題解決を図っていく空間を大切にしてきました。





# 事業を支えるスタッフたち



授業準備と授業に追われる日々ですが、だからこそ、チームワークが大事。そして手話でしゃべっているせいか、みんな表情がやわらかくて良い笑顔を見せていますね！



MEETING

# 研究スタッフ ミーティング



忙しくなりすぎて、なかなか打合せの時間がとれないのも偽らざる事実ではありますが、だからこそ、授業の合間などのちょっとした時間にサッと行う打合せがとても大事。プロジェクトリーダーの金澤は、おちゃらけてばかりですが、たまにはマジメなことも言います。







# 高校の授業

## 手話を本格的に学ぶ

オンライン環境で実現させたユニークな取り組みの1つが、福島県伊達市にある聖光学院高等学校での手話の授業。毎週の授業は Zoom を使ったオンラインで行っていますが、適宜対面授業も取り入れることで、心がつながる距離感を大切にしています。



## トークショー

スペシャルイベントとして企画されたトークショー。手話を学んでいない生徒たちにも手話の魅力を知ってもらう貴重な機会になりました。





**Photobook**  
**群馬大学手話サポーター**  
**養成プロジェクト室の取り組み**  
**(2021-2022) 2023年3月発行**



HPはこちら

国立大学法人 群馬大学 手話サポーター養成プロジェクト室  
〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4丁目2番地  
<https://sign.hess.gunma-u.ac.jp/>  
TEL : 027-220-7157 (直通) FAX : 027-220-7390  
E-mail : SLSDP@jimu.gunma-u.ac.jp